

昭和電工株式会社 2019年3Q 決算説明会 Q&A要旨

日時：2019年11月6日（水）18:00～19:00

説明者：取締役執行役員 CFO 竹内 元浩

* 内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 3Qから4Qに向け、各セグメントの強弱感はどうか。

A 無機セグメントは3Q、4Qほぼ横ばいで見ているが、それ以外のセグメントは緩やかな回復傾向にある。

【石油化学セグメント】

Q 東アジアにおける3Qのエチレン市況は弱かったが、石油化学セグメントが比較的良好な利益が出ている理由は。

A 3Qのエチレン市況は低下したが、プロピレンやベンゼン等の市況が比較的堅調に推移し、サンアロマーも堅調であったため。

【化学品セグメント】

（電子材料用高純度ガス）

Q 電子材料用高純度ガスの出荷量は回復したか。4Qの出荷動向は。また、どの分野向けか。

A 大きな数量ではないが、3D-NAND向けを中心に2Qから3Qは徐々に出荷量が回復した。4Qは3Q比でメモリーを中心とした顧客の生産回復に合わせ、出荷量が増加する。

【エレクトロニクスセグメント】

（HD）

Q データセンター用14TB向けHDの出荷動向は。

A 当社の14TB向けHDは、遅れたものの2Qに出荷を開始した。3Qの出荷量は増加し、ほぼ前年同期並みの水準まで回復、4Qはさらに増加を見込んでいる。2020年はデータセンターの投資が本格化することを期待し、メディアの出荷増の傾向が続く見通し。

【無機セグメント】

（黒鉛電極）

Q 8月時点は15%程度の減産を想定という説明だったが、足元の減産幅はどの程度か。減産は主に欧州か、東アジアや米国も減産したのか。

A 欧州の景気減速を受け鉄鋼生産が8月時点より軟化しており、減産幅を約30%の水準まで拡大させた。米国は高い稼働を続けている。日本・東アジアの需要は比較的堅調で小幅減産。中国は厳しい状況が続いている。

Q 顧客の黒鉛電極の在庫調整の終了時期については。

A 8月時点では2019年末に調整終了と見ていたが、欧州景気の減速で鉄鋼生産が軟調であり、顧客の在庫調整は2020年上期まで続くとしている。当社は顧客の在庫調整に伴い減産を強化し、合わせて欧州拠点の品質改善投資に注力している。

Q 黒鉛電極の下期の市況動向は。

A 2017年を基準年として上期は5倍程度となったが、3Qは5倍弱と小幅に低下した。東アジア向け10～3月期契約も小幅に低下したものの高水準を維持している。

以上

* 本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。

- ・経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート
- ・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2019年11月6日発表の弊社決算短信をご参照ください。